

**福祉フォーラム2008開催のご案内** **テーマ:当事者主権の価値と実践**

**日時:**2008年10月4日(土)13:30~16:30  
5日(日)10:00~15:30  
**場所:**龍谷大学瀬田学舎  
4号館209教室他

**1 日目 基調講演と対談** 13:30~16:30 基調講演テーマ「水俣学に学ぶ」

**講師** 原田 正純(熊本学園大学教授・水俣学研究センター代表)  
**対談** 原田 正純  
上林 茂暢(龍谷大学教授)  
コーディネーター 大友 信勝(龍谷大学教授、福祉フォーラム会長)

**2 日目 分科会と講演** 10:00~15:30

**分科会** 10:00~12:00 分科会テーマ:当事者とともに考える

**分科会I** 依存症からの回復とその支援…………… 猪瀬 健夫(びわこダルク施設長)  
山口 浩次(大津市社会福祉協議会)

**分科会II** 多重債務当事者からの発信とその援助…………… 土井 裕明(弁護士)  
生水 裕美(野洲市消費生活相談員)  
コーディネーター 長上 深雪(龍谷大学教授)

**分科会III** こども主権とは何かー学童保育実践が伝えるもの… 川地亜弥子(大阪電気通信大学准教授)  
コーディネーター 土田美世子(龍谷大学准教授)

12:00~13:00 **会員のつどい** コーディネーター 長上 深雪

**講演** 13:30~15:30 講演テーマ:ソーシャルデザイン~共生社会へのアプローチ~

**講師** 今中 博之(社会福祉法人 素王会 アトリエ インカール理事長/クリエイティブディレクター)  
コーディネーター 筒井 のり子(龍谷大学教授)

# 福祉フォーラム通信

Vol.5

発行日:2008年8月1日  
発行元:龍谷大学福祉フォーラム

## 縁が円を描く~福祉フォーラムの可能性

福祉フォーラム副会長 長上 深雪  
(龍谷大学社会学部長 社会学部教授)



昨年から装い新たに「龍谷大学福祉フォーラム」がスタートした。このフォーラムは大学から地域社会に対する一方的な矢印で展開される社会的貢献とも、また双方向型で取り組まれることが多い教育交流とも異なる取り組みではないかと思う。一言で言い表すならば、「らせん型学習活動」といってもよい。活動の中身が深まり、参加者が多くなればなるほど、らせんが描く円は幾重にもかさなり、その円弧はより大きくなる。円を描くことは縁をたぐり寄せることでもある。そんな活動を目指しているが、そのためには円弧を描く主体である地域社会あるいはフォーラム会員と大学がもっと近い関係になることが必要である。大学が会員や地域社会にとって「知の府」として頼りになる懐の深い存在であることが前提となることは言うまでもない。福祉フォーラムとしていかなる「知」を発信し、どんな「学び」を誰と共有していくか、そしてその先にある社会の有り様にも目を向けながら、当面は活動の裾野を拡げ、多様な人々とのネットワークを形成していきたいものである。

**専門セミナー開催のご案内** **テーマ:子ども虐待対応のアセスメント**

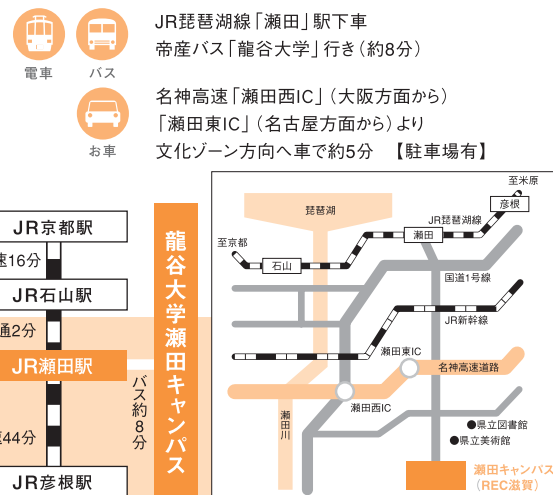
- 第1回** 2008年10月18日(土)14:00~15:30 **テーマ:アセスメント概論**  
山田 容(龍谷大学准教授)
- 第2回** 2008年11月15日(土)14:00~15:30 **テーマ:行動の見立て**  
望月 昭(立命館大学教授)
- 第3回** 2008年11月29日(土)14:00~15:30 **テーマ:家族の見立て**  
倉石哲也(武庫川女子大学大学院教授)
- 第4回** 2008年12月6日(土)13:30~16:30 **テーマ:ケースの見立て**  
菅野道英(滋賀県中央子ども家庭相談センター主任専門員)  
山邊朗子(龍谷大学教授)  
山田 容(龍谷大学准教授)

**編集後記**

連日酷暑が続いています。午後、家の前に打ち水をされている光景に出会いました。一瞬涼やかな気分になれたのは、その行為に道行く人へのいたわりを感じたからかもしれません。福祉フォーラムも、後期に向けて「共生」にかかわるテーマで講座を準備中です。会員の皆様と共に進んでいきたいと願っています。会の運営や今後の企画について、ご意見やご希望をお寄せ下さい。(T)

**お問い合わせ**

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀)  
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
TEL/077-543-7744 FAX/077-543-7771  
E-mail/r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp  
ホームページ/http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/



**会員の声**



井上 源太郎さん

昨年の福祉フォーラム「共生塾」で、大友会長の「地域を何とかしていこう」という熱いメッセージに感銘を受け、今年の共生塾にも参加した。自分自身地区社協の会長、スクールガード、と地域活動をしているので、その中でフォーラムで学んだことを活用していきたいと考えている。

福祉フォーラムの会員には、様々な経験や考えを持つ人がいる。私自身は、禁酒のセルフヘルプグループの運動を続けており、学生や市民に飲酒の怖さ、自分の活動を伝えていきたいと願っている。講義を聴いて知見を広めたい、ということももちろんだが、会員からも「発信」していける場づくりを、今後福祉フォーラムに期待している。



森田 りおさん

現在、龍谷大学社会学部地域福祉学科の3年生です。

福祉フォーラムは学生にとって「現場主義」の現場の声が生で聞けることが魅力になっている。大学の講義で理論を学んだだけでは字面としてしか理解していない部分が、フォーラムで現場の活動を聴くことでつながるおもしろさがある。別の事業だが、今年からは大津エンパワネットで身近な大津市の自治体活動の実際や、活動されている市民の講義を受けることができるので、福祉を様々な視点から見ることができるのはとても良いと思う。外部講師の話や、龍谷大学の非常勤の先生や、他学部の先生の実践の話など、様々な視点の話を聴いてみたい。

## 2008年度前期「共生塾」が開始!

### テーマ:『福祉のまちづくり』モデルの光と影

「福祉のまちづくり」の典型である鷹巣(現・北秋田市)モデルの教訓と課題は、本フォーラムでも昨年の前期「共生塾」で取り上げました。今回はこのテーマをさらに掘り下げ発展させることをねらいとして、6月28日、7月5日、7月26日と3回連続の企画とし、すでに2回が終了しました。(なおオプションとして、昨年度受講しなかった方のために映画「あの鷹巣町のその後」(羽田澄子監督)を上映しました。)

#### ◆第1回 6月28日(土)「21世紀のまちづくりビジョン」



岩川氏は、1991年以来鷹巣町長を3期12年つとめ、2003年の町長選に敗れた。岩川氏は薬剤師であったが、政治家は住民のよき代弁者で、主役は住民であると考え、住民が語る生活の実態と老後の不安から、生活を支える福祉の充実を第一に優先させたという。そのため第1にデンマーク・モデルに学び、住民参加型の町民組織としてワーキンググループを作り、そこでの議論から24時間ヘルパー派遣、グループホーム、ケアタウン鷹巣における全室個室ユニット、高齢者安心条例を誕生させた。その一つ一つが国の施策をリードしたにもかかわらず、新体制下では次々と後退もしくは廃止が決定されたのである。

岩川氏が第2に学んだのがアウシュビッツであった。アウシュビッツの門には「労働は自由につながる」と書かれている。その門をくぐって多くの人々が抹殺された。「絶対にゆるしてはならない。私の原点はここにある。」

講師 岩川 徹氏(前・鷹巣町長)  
富野暉一郎氏(龍谷大学教授、前・逗子市長)  
コーディネーター 長上深雪(龍谷大学社会学部長 社会学部教授)

一人のいのちの重さを大切に」と、結ばれた。

富野暉一郎氏は、1984年に神奈川県逗子市で米軍住宅反対の市民運動から立候補し、2期8年間市長をつとめた。その運動の原則は、①指導者を作らない、②外国人を差別しない、③政治活動をしない(生活の問題として考える)ことであり、基本理念は「緑・平和・自治」であった。当時は安保問題に激動の時代であるが、地域の問題は地域の自治で取り組むべきだと考えた。住民との共同作品としての地方行政をめざし、認知症一人暮らしの高齢者への食事サービスに関する協議会からネットワークを作り出した例も紹介された。

先進的自治体の役割は、社会の仕組をつくることにある。そこから国の先進的制度化へと「風を送ること」が大切であると話された。

休憩後は長上深雪教授のコーディネートにより、フロアとの質疑を交えて率直な意見交換が行われた。

#### ◆第2回 7月5日(土)「鷹巣町モデルの光と影」



大友信勝氏は、大学卒業後秋田県庁に就職し最初の担当が鷹巣町であった。それ以後幾度か現地に入り鷹巣で何が起きているかを注目してきたが、本格的に関わるようになったのは、岩川氏が町長選挙に敗れ、町議会の「ケアタウンたかのす」業務実態調査委員会の委員を委嘱されてからのことであった。

「鷹巣モデルの位置と特徴」として、①「政策・制度モデル」としての重要性、②地方自治の単位としての「基礎自治体」、③北欧の高齢者委員会に学ぶ住民参加を制度化したユーザーデモクラシー、④「民主主義100年の歴史」への挑戦としての意義、があげられた。

後半は、大友氏執筆の「自治体福祉の光と影」(「ケアその思想と実践5」岩波書店2008年6月)の骨子にそって、わかりやすく話された。「福祉偏重のせいで町財政が危機に陥った」「ケアタウンたかのすでは人を殺している」などの風聞をひとつひとつ確かめることはたいへんであったが、調査を通して見えたものは、「夢の特例債」をかけた市町村合併に向けての世論誘導の実態であった。

講師 大友 信勝氏(龍谷大学教授・福祉フォーラム会長)

福祉の見直しは、「福祉のまちづくり」を変容させた。指定管理制度により、ケアタウンたかのすの管理は、人的・物的能力に優れた質の高いサービス実績をもつ福祉公社から、社会福祉協議会に変更された。福祉公社によるグループホームは廃止され町内会館となったが、そのことが認知症をもつ利用者にとりいかに深刻な影響をもたらしたか。

社会福祉協議会とはそもそも何なのか。良質なサービスや零細なNPO法人や当事者グループを支援することが本来的な仕事ではなかったか。

今、北秋田におけるいのちとくらしを守るまちづくりに向けて、集会や研究交流の準備が大友氏らによって進められている。「歴史は大きく変わる。押し切られることもあるが、歴史に流されるのではなく、主体的に新しいモデルをどう切り拓いていくかが、私たちに課せられた使命である」と力を込めて語られた。

その後、フロアから自らの地域における具体的な実践にひきよせた問題も語られ、次回への期待が高まった。

#### 第1回及び第2回参加者の声から

- 住民の意志形成によるまちづくりの難しさや重要性を感じることができました。
- 地域づくりと地域の民主化は一体のものだと改めて認識しました。
- 鷹巣モデルを通して、理論や価値の持ち方について考えることができました。行政の立場からの地域づくりも考えていきたいと思いました。
- 参加された方からも市民活動や地域福祉活動の現状が聞けてよかったです。

## 2008年度前期専門セミナー開始!

龍谷大学福祉フォーラムでは、2008年度より「専門セミナー」を開講しました。これは、かねてより要求がありました専門職の方々や特定の分野について専門的な見地から深めたい方々を対象にした講座です。記念すべき第1回の講座は、学童保育指導員の方々を対象に以下のようなシリーズで開講しております。現在、第二回まで終了いたしました。

#### テーマ 成人期を見通した学童保育専門職のしごと ~中村隆一に「こどもの発達」を学ぶ~

近年、学童保育所の利用者は急激に増え、同時にそこで働く学童保育指導員の数も急増しています。学童保育指導員が、こどもの発達をしっかりと学び、成人期を見通した専門的かわりをしっかりとしていくことが、学童保育内容の充実につながります。今回の講座は、子育てにおいて重要な役割を担っている学童保育指導員の専門性を高めるためのものです。

講師 中村 隆一氏(立命館大学教授、大津市知的障害者地域生活支援センター発達相談員)

日程	第1回	6月22日(日)13時30分~16時30分
	第2回	7月6日(日)13時30分~16時30分
	第3回	10月19日(日)13時30分~16時30分
	第4回	11月30日(日)13時30分~16時30分



学童保育所は月曜日から土曜日まで開所しています。日曜日は先生たちの休日・休養日です。にもかかわらず、今回の講座にはおよそ80名の方々が申し込まれました。現在まで、二回が終了しましたが、いずれも指導員の方々の「勉強したい」「専門性を高めたい」という熱い思いが会場にみなぎり、中村先生の講義にも力がはいりました。あつという間に3時間がすぎ、充実した講座でした。学ぶってすばらしい!と心より感動した講座です。

初回は、「発達を学ぶこと・実践を形象化すること」というテーマでの講座でした。このなかで、中村先生は、学童保育専門職がこどもの発達について学ぶ意義は、①見通しをもてること、②学童保育実践をことばにし伝え合い記録する上で参考になる、の二点を述べられました。発達のことを知らなくても学童保育のしごとはできますが、こどもの発達を知ること、成人期を見通した豊かな実践になり、また実践を教訓化できるということです。

学童保育の社会的位置づけについても明確に述べていただきました。第二回目は、「さあ、旅が始まる」というテーマで、いよいよ誕生からの順をおっての発達についての講義が始まりました。誕生にまつわる生命の神秘には感動をしますが、それ以上に、「学童保育に登場するこどもたちの10年前後の人生に思いをはせ、一人ひとりの「私が私である由来」を探ることの重要性をより深く学ぶことができました。

初回では尾崎豊らの詩歌に発達の見通しを学び、二回目は「千と千尋の神隠し」(映画)を導入に発達の意味や「私が私であること」をどう捉えるかについて考えました。中村先生の詩歌や映画の中に発達を学んでいくという講座は、とても魅力あるものでした。講義を受けて、学ぶには感受性も必要なんだとつくづく思いました。

#### 参加者の声から

- ◆ 学童期の子どもと関わる上で、発達を学ぶことの意味について、確信がもてました。目の前の今の子どもの姿だけでその子をとらえてしまうのではなく、どのような発達のみちすじを歩んできたか、また、どのように見通しを持って関わっていけばいいのかということを理解しておくことはとても大切である。
- ◆ 指導員としてだけでなく、親として、大人として、子どもの成長を長いスパンで見越していく目、心を養う必要性を感じました。
- ◆ 指導員としての在り方を見直すきっかけとなりました。子どもとのかかわりのなかで、どのようにして問題を解決に導けばいいかわかりませんでした。時間というものの大切さを思いました。